



美しい鵜の浜海岸を
救いたい！
ストラットン恵美子(久比岐野)



問／海岸侵食について、県と市の連携はどうか。

答／県は令和5年度から離岸堤を2基新設する事業に着手している。海岸の状況を注視し、必要な対応を検討するとともに、県との連携を深め、砂浜の保全に向けた取り組みを進める。

問／海岸防風林における植樹等の対策はどうか。

答／松くい虫被害や令和3年の豪雪などにより、多くの松が枯れている状況であることから、補植や苗木を保護するための柵の改修など、保安林整備を行う県に早期の対応を働きかける。

問／養鶏場の悪臭被害への市の対応はどうか。

答／令和6年1月に、事業主が近隣町内会へ今後の改善に向け説明するとともに意見交換を行った。今後も事業主への指導や臭気測定を行い、改善に向けて取り組む。

居住区により通学費用の負担に大きな差

問／高校生の通学費用の負担に大きな差があり、希望校の断念や移住を検討する保護者の声もあることから、通学支援を早急に考えるべきでは。

答／中山間地域の交通を確保するため令和4年10月から導入した予約型コミュニティバスは、高校生の利用にも配慮した運行時間とし、安塚区、牧区のほか、令和6年4月からは浦川原区、大島区でも取り組みを始める。他自治体の先行事例を参考に、引き続き研究を進めていく。



想定される車中泊避難
等への対応の必要性
宮崎 朋子(創風)



問／避難所の在り方の変化や避難行動の多様化により、当市としても車中泊避難などの避難所外避難者への対応の検討が必要ではないか。

答／避難所外避難者に対しても、食料品など必要な物資の配布、保健師等の巡回健康相談、被災者への支援情報の伝達等を行い、生活環境の確保に努めることとしている。また、車中泊避難者へは、エコノミークラス症候群予防の注意喚起のほか、備蓄食料の配布など避難所内の避難者と同様の支援を行っている。今後もあらゆる場面を想定し、地域防災計画等で定めるとおり必要な支援が行き届くよう、庁内や関係機関と連携しながら備えていきたい。

子ども達の生き抜く力、金融教育の重要性

問／子ども達が、よりたくましく生き抜いていくために、自分で考えてお金を使い、投資や経営などの基本を学ぶことが必要と考えるが当市の学びの状況はどうか。

答／学習指導要領において、小中学校では学びの段階に応じた指導を行ってきた。令和5年度は、金融機関の出前授業などを行った学校がある。お金に関する学びは、児童生徒の自立する力の育成や社会と関わる力の育成にもつながると捉えており、様々な指導教材等の活用を促しながら、引き続き取り組んでいきたい。



春日山城の推定復元に
期待！
丸山 章(政新クラブ)



問／観光庁で行っている建物を含めた復元の実現が可能かどうかの調査結果を待ちたいとのことだが、城の推定復元に向けた当市の積極的な姿勢を文化庁に示すべきではないか。

答／令和5年度末に公表予定の観光庁の調査結果と同年観光計画を突合し、整合を図る必要がある場合は、本計画の修正について検討する。

雁木町家の保存条例の制定は？

問／通年観光特別委員会において、小田副市長は条例があれば施策の継続が見込めるとの考えから担当部署に「自分だったら条例を作る」と発言した。雁木町家の保存条例の制定に向け、スピード感を持って対応すると理解してよいか。

答／雪国文化の雁木町家の街並み保存・整備は公約に掲げており、一層の取り組みが必要である。金沢市のような関連条例の提案も視野に、先進地の情報収集等を行っていきたい。

地域独自の予算の問題点

問／補助率は段階的に減少し、令和8年度には10分の7になることから、地域負担が増加する。地域が意図するまちづくり等ができるのか。

答／経過措置の間に、各団体から自主財源の確保に取り組んでほしい。補助率の在り方を含め、必要に応じて事業の仕組みを検討していく。